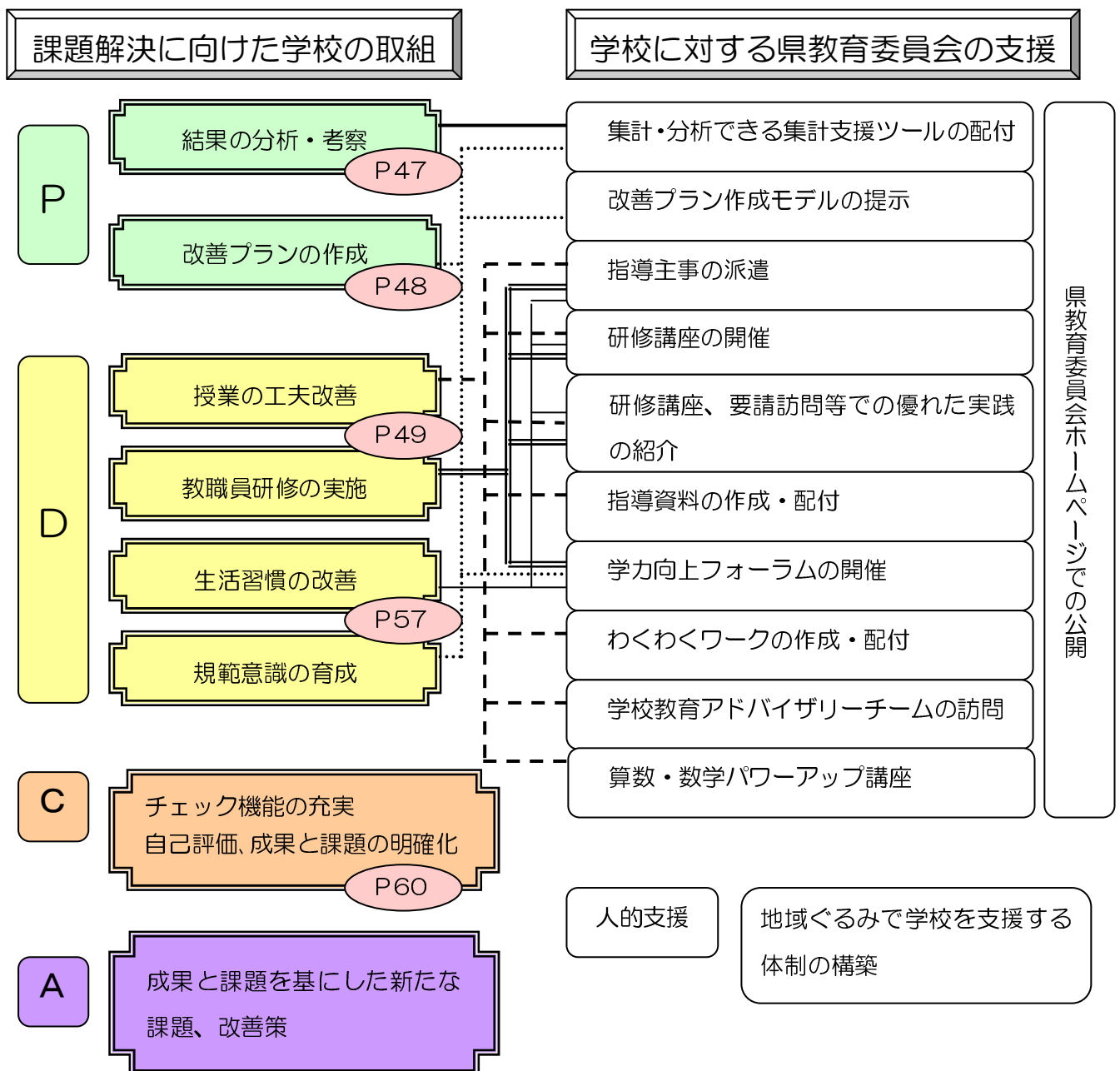
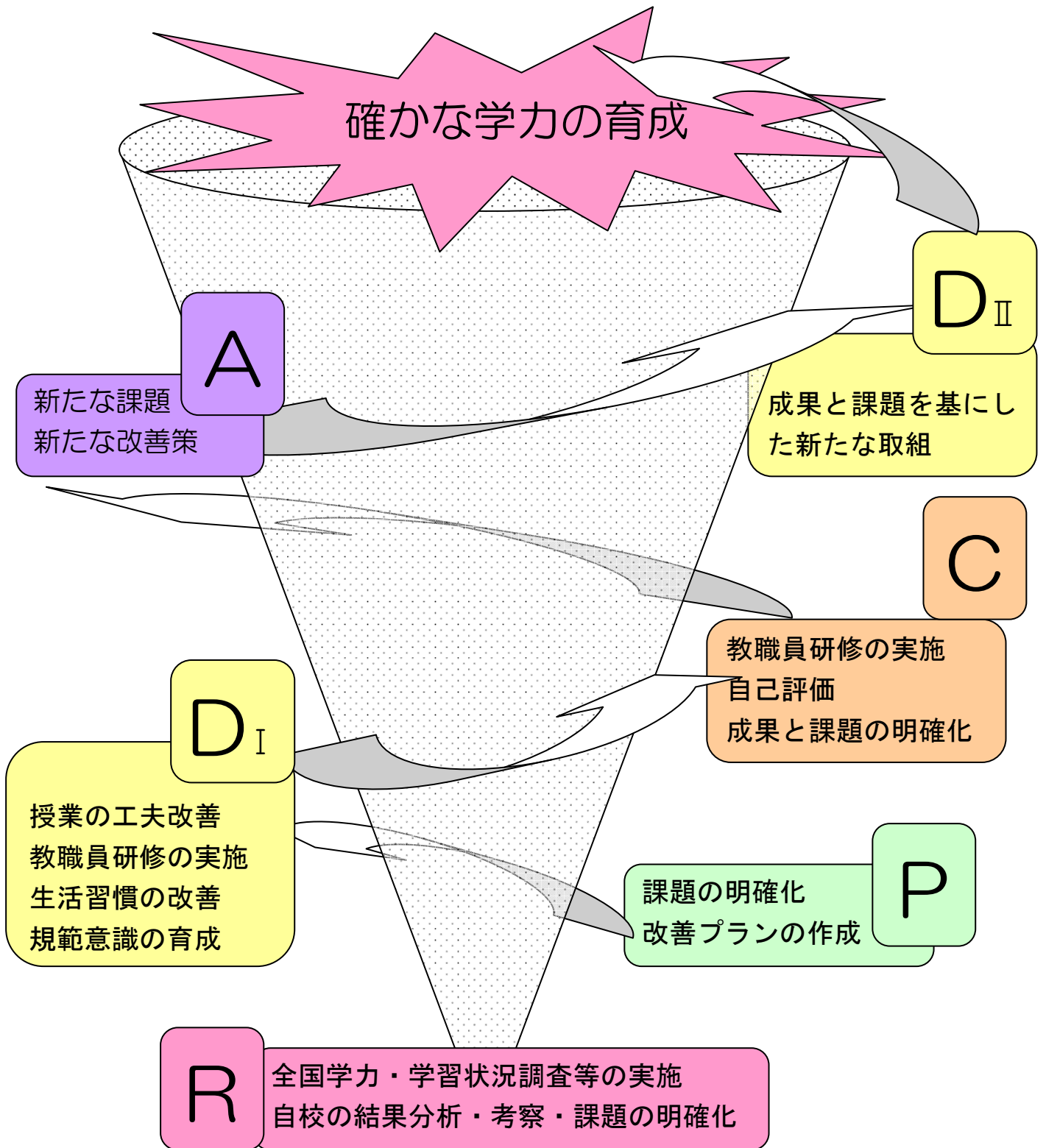


各学校での検証改善サイクルと取組例

年間を見通して、学校全体で取り組むシステムをつくりましょう。
いくつかの例を示しています。取り組む際の参考にしてください。
県教育委員会では、それぞれの取組に応じた支援を行っています。



検証改善サイクル構造図



結果の分析・考察

学校全体で取り組むシステムをつくりましょう。
 学校独自の改善プランを作成するには、全国学力・学習状況調査等の学校の調査結果を集計・分析することが必要です。

分析の視点(例)

教科に関する調査

- 設問別正答率
 - 類型別正答率
 - 正答数の分布の形状
- どんな学力の状況・課題があるのでしょうか
- 平均正答率が全国と比較して差の大きいもの
 - 平均正答率が全国と比較して低いもの
 - 平均正答率が他の問題と比較して低いもの
 - 無解答率が高いもの
- どこに課題があるか明らかにしましょう

質問紙調査

- 全国平均より5ポイント以上高いもの
 - 全国平均より5ポイント以上低いもの
 - 他の設問と比較して差の大きいもの
- どこに課題があるか明らかにしましょう

教科に関する調査と質問紙調査との相関をみる

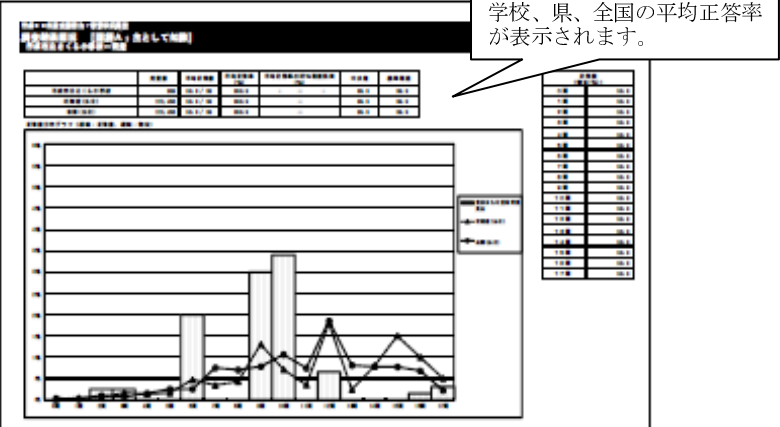
各学校で**集計・分析のためのツール**を活用しましょう。



ツールを使うと以下の(1)①~⑤、(2)が作成できます。

(1) 帳票類 ①「調査結果概況」
 教科に関する調査において、正答数別の児童生徒の割合を表したグラフ

(2) 「結果チャート」
 教科に関する調査及び児童生徒質問紙調査の結果を標準化して図示したチャート



(1) ② 「設問別調査結果」

教科に関する調査において、設問ごとの学習指導要領の領域等、評価の観点、問題形式、正答率及び無解答率等を表した表

(1) ③ 「設問別（解答類型）調査結果」

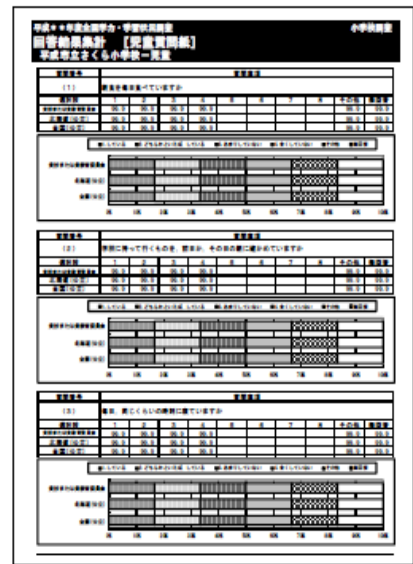
教科に関する調査において、児童生徒の解答状況を類型化し、設問ごとの解答類型別の児童生徒の割合を表した表

(1) ④ 「児童（生徒）質問紙_回答結果集計表」

児童生徒質問紙調査において、質問ごとの選択肢別の児童生徒の割合を表した表

(1) ⑤ 「児童（生徒）質問紙_回答結果集計グラフ」

児童生徒質問紙調査において、質問ごとの選択肢別の児童生徒の割合を表したグラフ



改善プランの作成

学校全体で取り組むシステムをつくるため、学力向上に関わる校内組織を設置しましょう。

既存の組織も活用し、確かな学力を身に付けさせるために、学校・家庭・地域の役割を明確にし、連携できるようにしましょう。

分析結果を踏まえて、学校としての重点目標を定め、学校全体で取り組みましょう。

授業の工夫改善

教職員の研修

知識・技能を活用して、問題解決を行う学習を組み立てましょう。
学習に対する意欲を高める手立てを工夫しましょう。

★★★ 学習意欲の向上を目指す ★★★

- ⇒ 興味・関心を高める教材の開発を行う。
- ⇒ 朝の学習や朝の読書など、継続した取組の中で達成感や成就感を味わわせる。
- ⇒ 単元のはじめに学習の見通しをもたせる。
- ⇒ 失敗や苦勞をしてもやり遂げさせ、達成感を味わわせる。
- ⇒ 学習規律の定着を図る。
- ⇒ ICTを活用したり、教材を工夫したりすることにより、興味・関心を高める。
- ⇒ 小・中学校教科等指導資料を活用する。 等

★★★ 知識・技能の確実な定着を図る ★★★

- ⇒ つまづきやすい内容を繰り返し学習する機会を設ける。
- ⇒ 少人数指導、個別指導、習熟度別指導等の指導体制を工夫する。
- ⇒ わくわくワーク（ワークシート）を活用する。
- ⇒ 家庭学習の工夫をする。 等

★★★ 知識・技能を活用し、課題を解決する力を育成する ★★★

- ⇒ 知識・技能を活用する場面を取り入れた指導計画を立てる。
- ⇒ 日常生活との関連を図った学習活動を意図的に取り入れる。
- ⇒ 体験的な活動の中に、知識・技能を活用する場면을位置付けた指導を展開する。
- ⇒ 学び方や考え方を身に付けさせる学習を取り入れる。
- ⇒ 小・中学校教科等指導資料を活用し、授業改善を図る。
- ⇒ 全国学力・学習状況調査の結果を分析し、教科指導の改善を図る。 等

★★★ 日常生活との関連を図った言語活動を工夫する ★★★

- ⇒ 各教科において位置付ける言語活動を明らかにする。
- ⇒ 身に付けた言語能力を使う必然性のある場面を設定する。
- ⇒ 教職員自身の言語の見直しを行う。
- ⇒ 話合いの司会や発表の機会を充実させる。
- ⇒ 相手や場面に応じた話し方や書き方について指導を行う。
- ⇒ 少人数での話合いの場面を設定する。
- ⇒ 話の要点を聞き取り、要約する活動を取り入れる。
- ⇒ 限られた条件の中で、必要な情報をまとめて表現する学習を取り入れる。
- ⇒ 掲示物等の学校内の児童生徒の言語環境を充実させる。
- ⇒ 学校図書館の計画的な活用を図る。
- ⇒ 読書活動の一層の推進を図る。
- ⇒ 小・中学校教科等指導資料を活用し、言語活動の工夫・改善を図る。
- ⇒ 言語活動が活発になるような授業改善を図る。(例えば課題提示の工夫、発問や葛藤場面の設定、学び合いの時間をとるなど)
- ⇒ ノート指導など、書く指導の充実を図る。 等

★★★ 校内研修の充実を図る ★★★

- ⇒ 明らかになった課題を解決するための研修内容を検討する。
- ⇒ 児童生徒の実態に応じた指導方法の改善点を検討する。
- ⇒ 自校の課題解決のための重点目標の設定や、研修計画の作成を行う。
- ⇒ 研究授業を積極的に行い、実践的な研究を重ねる。
- ⇒ 全国学力・学習状況調査の結果を分析し、課題の検証改善を図る。 等

★★★ 効果的な指導体制の確立を目指す ★★★

- ⇒ 指導計画の見直しや指導体制の検討を行う。
- ⇒ 研修体制や研修計画を見直す。
- ⇒ 奈良県学校・地域連携事業等を活用するなど、地域ぐるみで学校を支援する体制の構築を図る。
- ⇒ ICTの計画的な活用を図る。
- ⇒ 体験的な学習やグループ学習などを効果的に取り入れる。 等